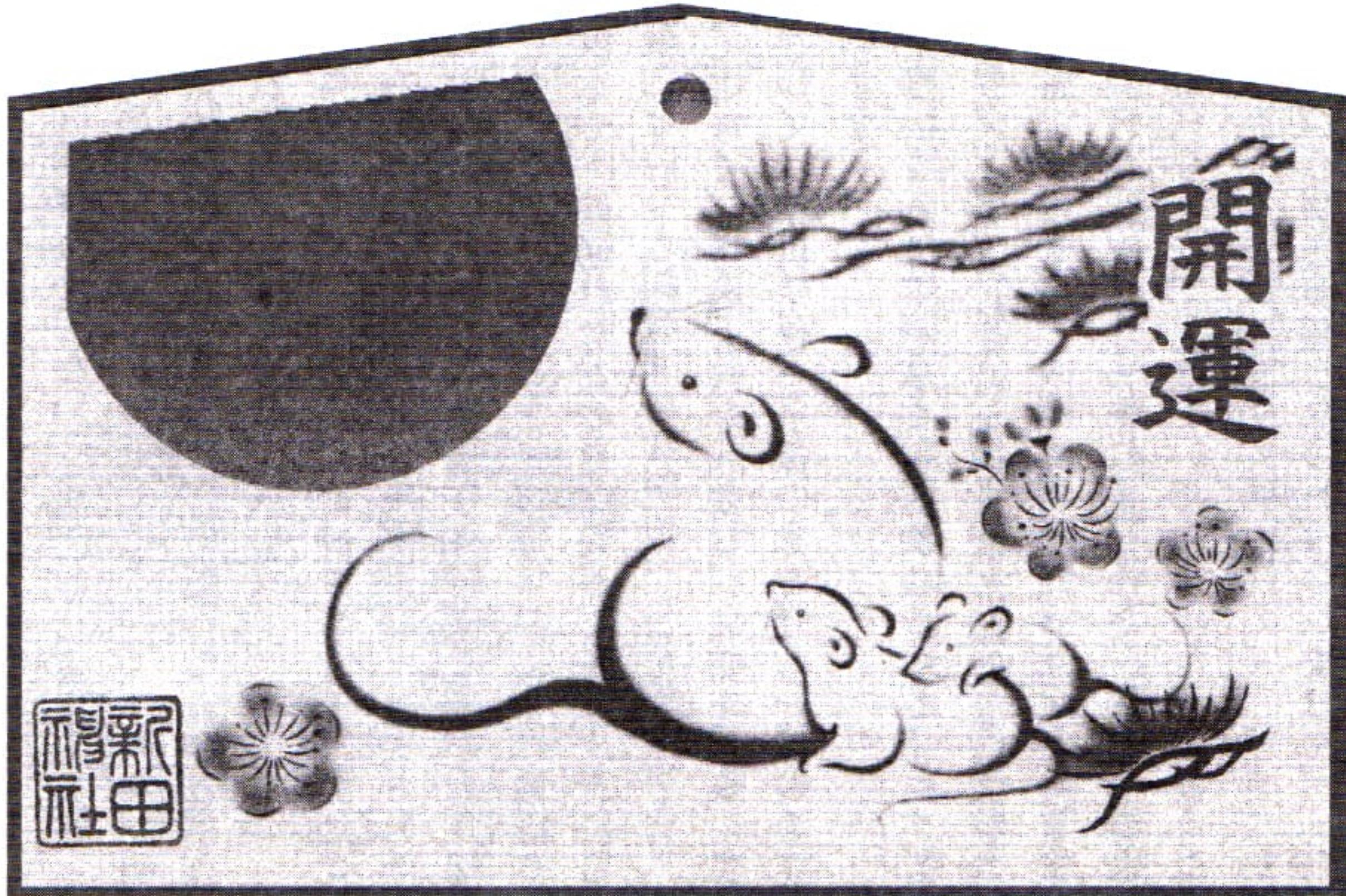


新田神社社報

令和2年1月1日発行
新田神社社務所
大田区矢口1-21-23
電話 03-3758-1397
<http://nittajinja.org/>



迎春

『平成の御代に心からの感謝と
令和の御代に新たな希望を』

新田神社宮司 品川宗久

あけまして、おめでとうございます。

まずもつて平成の御代に心からの感謝をしたいと思います。平成という時代を振り返ってみると、なんといつてもインターネットが便利になり、その力が世界をえていったことだと思います。そして経済活動は地球規模にグローバル化が進むと共に自然災害も多い時代でした。

このような時代の中、上皇陛下の平成十五年の歌会始に詠まれた

我が国の旅重ねきて思ふかな

年経る毎に町はととのふ

といふ御製がありますように、上皇陛下は昭和天皇のご意志を繼がれ、日本の復興やさらなる発展を願い、各地をまわられた上皇両陛下のこうした思い・お姿は、被災地の方々はもとより、私たち多くの国民の心に深く刻み込まれております。

そして新たな令和の御代の初めてのお正月を迎えました。この令和は万葉集を語源とし、悠久の歴史と香り高き文化、四季折々の美しい自然、こうした日本の国柄をしつかりと次の時代へと引き継いでいって欲しいという思いと共に、厳しい寒さの後に春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように、一人一人の日本人

が明日への希望を持ち、それぞれの花を大きく咲かせる事ができる、そうした日本でありたいとの願いを込めた元号です。

それは江戸時代まで「瑞祥（すいしやう）（めでたいこと）」や「災異（さいい）（災害・疫病）」などが起こつた時に改元をすることによつて、人々が和や絆を大切にして、気持ちを切り替えて、いい国にしようという思い・願いが込められたものなのです。

このように、私たち日本人は、この『和や絆』をとても大切にしています。昨年も今までにない大きな台風直撃など被災された地区や人々もお互い助けながら、今現在も様々な事を乗り切り、乗り越えようとしています。このところ毎年のように地震や台風による豪雨や洪水や土砂崩れなどの自然災害も多く、これらの一端は地球の温暖化という人間我々自身が招いた結果でもあり、自然を克服するのではなく、自然と共存共栄し、自然を大事にすることが自分自身ひいては子供や孫、子孫の身を守る一番の手立てではないかと思います。

どんなに科学が発展しても自然の力に適う事はありません。私たちは様々な自然の恵みで生かされています。木がはえていなかつたら空気もなく、息もできません。雨が降らなければ水もありません。太陽が照らさなければ温かさもありませんし、作物も育ちません。私たち人間は自分一人で生きているのではなく、様々な自然の恵みや周りの人たちの支えや協力があつてこそ、生きている、生かされているという事を実感しなければなりません。

皆様方におかれましては、新年を迎える「日本の様々な伝統文化」を見直すと共に、自然を大切にし、感謝の気持ちや絆という心を忘れずに、新たな気持ちで充実した日々を過ごされ、この令和という御代が、そして本年がよき年となりますよう御多幸と御平安を心よりご祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。

古来、ねずみは穀物・衣類・書籍をはじめ家財道具類を食い荒らし、多くの害を与える動物として、世界各国でもあまりいい印象はありません。フィンランドやモンゴルでは、ねずみは大洪水の時、ノアの箱船の中で悪魔によって作られたのだといい、ドイツでは魔女が布きれから作ったといわれています。

日本でも弥生時代には、すでにねずみの害に悩まされており、高床たかゆかの建物にねずみ返しと呼ばれる板を付け、その侵入を防ぎました。奈良時代になると猫が中国大陆から入ってきたので、ねずみの害を防ぐのに大いに役立ちました。江戸時代になると日本人は犬のチンや金魚のランチュウなどを完成させ、マダラブチのハツカネズミなども作り、ペットの品種改良になかなかの腕をふるいました。しかし、ねずみは犬や猫と違つて、人の友になることがなかなかできませんでした。

どちらかといえば、嫌われるねずみですが、沖縄には海の彼方かなたの靈魂が住む世界、つまり他界からねずみが來訪し、この世に生命と幸福をもたらすという信仰がありました。

また「ねずみの淨土じょうど」という昔話などもあります。

爺じいが山で働いていると、あやまつてにぎり飯（だんご・餅の場合もある）を穴に落としてしまい、地下でにぎり飯を手に入れただねずみたちは大喜び。

そして、そこにぎり飯を追つて穴に入った爺をねずみたちが接

『ねずみにまつわる話』

待し、爺はお土産にたくさんのお土産をもらつて帰る。

それをうらやんだ隣の爺は、わざとにぎり飯を落として、ねずみの穴に入り、宝物をひとりじめにしようとするが、反対に猫にひどい目にあうのである。

このように日本では時としてねずみが財宝をもたらし、或いは、財宝を守るという俗信仰などがあることも事実です。

また、「古事記」には大国主命が素盞鳴尊から様々な試練を与えられ、広い野原で火にかこまれてしまつた時に、白ねずみがどこからともなくやつてきて、大国主命を助けたという話などもあり、中世以後、白ねずみが大国主命の神使いとなりました。

出雲大社の御祭神で、古代、國作りの大業を成就され、夫婦和合の道を説かれた神様で、縁結びの神様として有名です。また、日本神話の『稻羽の白兎の話』では、皮をはがされた兎を助けたことにより、医薬にも通じる神様としても信仰されています。また「大国主命」とインドの神で福德や財宝を与える「大黒天」と同じ『ダイコク』と読み、両神とも、その姿形が「袋」を背負つていたところから、混同されてしまい、のちに恵比寿とともに福の神（七福神の一柱）として信仰されるようになりました。

●多摩川七福神では、素盞鳴尊の末裔が大国主命なので、氷川神社では大国主命を遙拝できるようおまつりしています。

※古事記や日本神話で『白い動物』

が現れることがあります。

これは通常でないものが生まれ出てくることを「瑞祥」といい、

めでたいことが起こる前兆・吉兆と言われ、古代の人々は、とくにこの「白い生き物」が現れ

た時、それを神様自身・神様のお使いとして尊びました。



※古代、社殿がない時代、神様が神聖な山や岩や「樹木」に宿るということから、神様を一人、二人とは數えず、一柱、二柱と数えます。

それゆえ新田神社にも樹齢七百年の『御神木』があり、触れると「健康長寿・病気平癒・若返り」のご加護があるといわれています。



『大國主命』

幸福祈願

『初夢宝船』

その年の運気を上げるために、正月三ヶ日の間に『宝船』の絵を枕の下に敷いて寝て、「縁起のいい夢、良い夢」を見るという風習が室町時代よりありました。

代表的な良い夢としては「一、富士。二、鷹。三、なすび」があげられます。これは日本一の富士山のように高い理想や志を持ち、大空に羽ばたく鷹のように、それに向かって突き進み、鋭い爪でそれをつかみ、なすびの語呂にあやかり、事をなす、成就させることの願いが込められています。

また白蛇の夢を見ると財運が向上する、お金が入ってくるともいわれています。

それはともかくとして、皆様方にとってそれぞれの良い夢をたくさんご覧いただき、この令和二年が良き素晴らしい年でありますようご祈念いたします。

●十一月中旬より正月三ヶ日まで限定授与

初穂料 五百円



新田神社



【家内安全】 【方位除災】 【厄除招福】^{やくよけ} 【必勝開運】
【縁むすび】 【合格祈願】 【身体健全】 【病氣平癒】^{へいゆ}
【商売繁昌】 【営業繁榮】 【交通安全】 その他
個人の祈祷料は、五千円以上お気持ちをお納め下さい。

お問い合わせは（三七五八）一三九七

新田神社社務所

まで

幸せと安らぎの日々を 新春祈祷の御案内

年頭に当たり、皆様方の幸せと無事を祈り、明るい希望に満ちた令和二年となりますようご祈願申し上げます。

令和2年の厄年（数え年）

	前厄	本厄	後厄
男の厄年	24才 平成9年生 満23才 うし	25才 平成8年生 満24才 ねずみ	26才 平成7年生 満25才 いのしし
	41才 昭和55年生 満40才 さる	42才 昭和54年生 満41才 ひつじ	43才 昭和53年生 満42才 うま
	60才 昭和36年生 満59才 うし	61才 昭和35年生 満60才 ねずみ	62才 昭和34年生 満61才 いのしし
女の厄年	18才 平成15年生 満17才 ひつじ	19才 平成14年生 満18才 うま	20才 平成13年生 満19才 み(へび)
	32才 平成元年生 満31才 み(へび)	33才 昭和63年生 満32才 たつ	34才 昭和62年生 満33才 うさぎ
	36才 昭和60年生 満35才 うし	37才 昭和59年生 満36才 ねずみ	38才 昭和58年生 満37才 いのしし
	60才 昭和36年生 満59才 うし	61才 昭和35年生 満60才 ねずみ	62才 昭和34年生 満61才 いのしし

数え年とは、満年齢に誕生日前には二歳、誕生日後には一歳を加えた年です。

厄年の方は、厄除祈禱をお受けになられたり、厄除の御守を身に付けられまして、厄年としての自覚を深め、神様のご加護のもと明るく充実した生活をお送り下さい。